

第3章 農業を担う組織・人々

1. 愛知西農業協同組合

一宮市・稲沢市を管内とする愛知西農業協同組合（JA愛知西）は、経営理念「食と農を通じて地域に根ざすJAづくり」のもと、県内でも有数の総合農協として、健全性・安全性を重視した事業・組織活動を進め、営農指導はもとより、信用・共済・販売・利用・宅地等供給・旅行などの各種事業や食育・地域貢献活動を行い、都市近郊型の特色を生かした地域農業の振興と地域社会の発展に貢献しています。

本地域における具体的な作物の例としては、古くから盛んに栽培が行われてきた水稲や露地野菜が挙げられます。

水稲では、大粒で甘みがあり、あっさりとした口当たりが特徴の「あいちのかおり」が広く栽培され、化学合成肥料や農薬を低減した「特別栽培米あいちのかおり」も育てられています。愛知西農業協同組合では米の拡販に積極的に関わり、生産から販売まで一貫した流通経路を確立しています。

野菜については、ナス・ネギ・ダイコン・ハクサイ・カンショ・ニンジンなどの各種生産者組織の育成強化に努め、農産物の品質向上と規格化の徹底を図っています。

また販売面では、採れたての農産物を販売する産直広場尾西店・赤見店での地元農産物の充実に加え、市内量販店での地産地消コーナーの設置や県内をはじめ関東地方の量販店で産直野菜の販売を展開するなど、インショップ事業にも力を入れています。

その他にも、地域住民と農家との交流や非農家の農業体験の場を提供するなど、農業に対する関心や理解を深める事業も広く行っています。



2. 木曽川漁業協同組合

昭和 24 年に設立された木曽川漁業協同組合は、木曽川（今渡堰堤の下流端～東海大橋の上流端）とその支派川流域の一宮市・稲沢市を地区とした漁業協同組合です。漁場の区域は、愛北漁業協同組合・日本ライン漁業協同組合・木曽川長良川下流漁業協同組合の 3 組合と共有しています。

河川や湖沼を利用して行う漁業である第 5 種共同漁業（内水面漁業）を営み、アユ・アマゴ（カワマス）・コイ・フナ・ウグイ・オイカワ（シラハエ）・ウナギなどを取り扱っています。

その他にも、マス釣り場の開設や木曽川四漁協共通の遊漁券販売、アユの人工ふ化放流による資源の保護や、養殖魚センターでのアユ養殖などの事業を行っており、一宮市の特産品である「木曽川の鮎一夜干し」の加工販売も行っています。また、天然アユの競り市も 9 月から 10 月頃の期間限定、一般参加可で開催しています。



3. 一宮市畜産組合

一宮市畜産組合は、市内の畜産経営者を構成員として、家畜の予防注射や畜舎の消毒などの経営指導を中心に事業を行っています。

一宮市では、都市化の進展する中で牛・豚・鶏・蜂などの畜産が飼育されています。そのため、コストの削減などに加え、防疫体制の強化や環境対策にも積極的に取り組んでいます。また、都市近郊であること生かし、畜産物やその加工品の直接販売を行う組合員もいます。

一宮市畜産組合に所属する一宮市養蜂組合では、クロガネモチから採取する蜂蜜を市の特産品として「福来蜜（ふくらみつ）」の名称で販売しています。



4. いちのみや緑と花の診療所

いちのみや緑と花の診療所では、庭木の病虫害（カイガラムシ・ハダニなど）の防除、自宅の庭木の手入れ・花づくり・土づくりなどの相談やガーデニング教室へのアドバイザーの派遣、各種イベントにおける緑化の啓発など、植木・花き生産振興と栽培技術の向上ならびに市民緑化の啓発活動などを行っています。

5. 一宮市女性農業者会議

一宮市女性農業者会議は、地域農業の発展を目指し、生活改善に関する知識及び技術の交換・調査研究などを行うことにより、主体性のある女性農業者の実践活動を推進している団体です。

具体的には、真清田神社門前朝市での活動を基本に、学校での食育への貢献や地場農産物の加工研修、イベントでの農産物・農産加工品の販売など、女性農業者のお手本となるべく様々な場面で活躍しています。



6. 尾張一宮 4 Hクラブ

尾張一宮 4 Hクラブは、30代までの若手農業後継者を中心メンバーとして、農業技術の研修・プロジェクト活動・ボランティア活動などを行っています。

経営する農畜産物の種類等に関係なく、将来の地域を担う若い農業者同士の交流を図るとともに、新規就農者や後継者ならではの課題を共有し、販売や農業の技術を切磋琢磨しながら学ぶ場となっています。



7. 木曽川町玉葱採種組合

一宮市木曽川町で大正時代から続く木曽川町玉葱採種組合では、全国的にも珍しいビニールハウスでの良質なタマネギ種子の栽培を行い、全国シェア約3割を誇っています。主力品種の「超極早生玉葱」は、発芽率が95%以上と国内最高水準の品質です。タマネギ種子は、主に九州の産地に出荷しています。

また、地元和菓子店と連携して、タマネギを生地に練り込んだ商品を開発するなど、新しい取り組みも積極的に行っています。



8. 尾西採種組合

愛知県には、水稻の種子を栽培する採種組合が8組合あります。一宮市で多く栽培されている「あいちのかおり」の種子を栽培しているのは、そのうち安城・尾西・西尾の3組合で、尾西採種組合の生産量は安城に続いて2番目です。

尾西採種組合では、一般栽培に比べて厳しい管理を行い、審査・検査等を経て、優良な種子を生産しています。



9. はつらつ農業塾

はつらつ農業塾は、農業従事者の高齢化や後継者不足による農地の遊休化に歯止めをかけようと、一宮市・稲沢市・愛知西農業協同組合が共同で平成20年8月に開校しました。

研修会場として、一宮会場・稲沢会場の2か所を用意し、受講ニーズに合わせ、家庭菜園を楽しむ際に必要となる野菜の基礎的な栽培知識を学ぶ「生きがい農業コース」と専門的な知識や技術を習得し、一宮市・稲沢市での本格的な就農を目指す「担い手育成コース」を設けています。「担い手育成コース」からは、これまでに一宮市の主要な農作物を出荷しているダイコン部会やナス部会などへ卒塾生を送り出してきました。

また、毎年農業塾を卒業されていく「生きがい農業コース」の参加者の中には、自主的に農業を楽しむグループ活動を行う方や、イベント・産直などに出品される方も多くみられます。そのため、定年退職者の帰農や家庭菜園を楽しむ方のレベルアップなども含めて、「生きがい農業コース」においても産直への販売を紹介する講座など開催し、これからの農業の裾野を大きく広げています。

農業就業人口の減少が進む現状の中、都市近郊での持続可能な農業の推進のため、はつらつ農業塾では、これからも職業としての農業を希望する担い手候補生、それから多方面で活躍する地域農業の支え手を積極的に育成していきます。

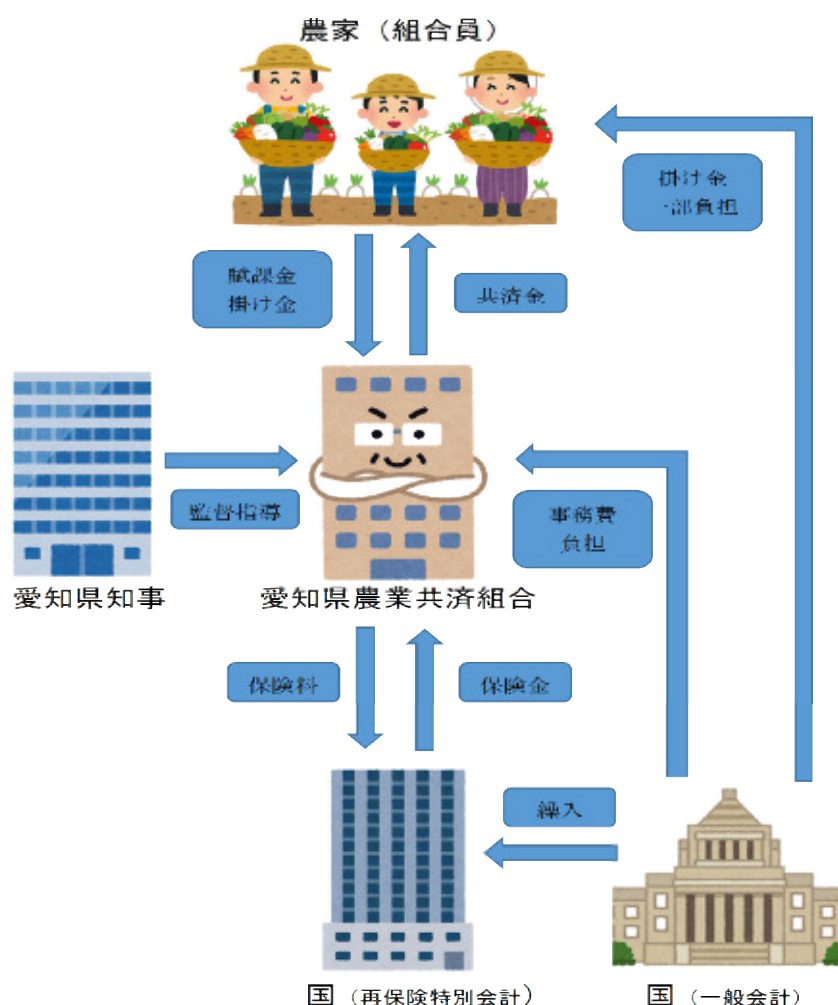


10. 愛知県農業共済組合

愛知県農業共済組合が行うNOSA I制度（農業共済制度）は、戦前の家畜保険（昭和4年制定）と農業保険（昭和13年制定）とを統合して、昭和22年制定の農業災害補償法の下に、農地改革によって創出された自作農民の経営を支えるための主要な災害対策として、再スタートした制度です。農業者が不慮の災害により農作物等に被害を受けた場合に、その損失を補填して農業経営の安定を図り、もって農業生産力の発展に資することを目的としています。

愛知県内の農業共済は、平成26年4月1日以降、愛知県農業共済組合が実施しています。同組合は、平成26年5月1日に愛知県農業共済組合連合会の権利義務を承継し、それまで同連合会が行ってきた事業を引き継ぎました。なお、愛知県農業共済組合尾張支所が一宮市を管轄しています。

また、農業収入全体に着目した新たなセーフティーネットとして導入する収入保険制度については、農業災害補償法（農災法）を一部改正し、制度創設にかかる規定を盛り込み、事業主体については「農業共済団体の全国組織」とされています。



11. 一宮地方総合卸売市場

一宮地方総合卸売市場は、第 2 次愛知県卸売市場整備計画に基づき、昭和 56 年 3 月に一宮市と 5 市場の共同出資で第 3 セクターの株式会社として開設されました。

一宮市を中心とする尾張西北部の拠点市場として、消費者に対する迅速で安定的な生鮮食料品等の提供や生産者に対する確実に速やかな販路の提供、小売業者等に対する取引の場の提供する役割を果たしています。

平成 8 年 4 月から「日曜新鮮市」を毎月第 1 日曜日に開催し、一般市民を対象に安価で新鮮な食料品の即売を行っています。

また、場内にある地場野菜供給センターでは、野菜出荷用プラスチックコンテナを生産者に貸し出し、ダンボール等の資源の減量化及び出荷・流通コストの削減を図っています。

その他、市民・消費者向けに、地場野菜の消費拡大を図る食の情報紙「ぐりーんりんぐ」を年 4 回発行しています。

敷地面積	43,264 平方メートル
所在地	一宮市大和町氏永仲林 140-1
取扱品目	青果物、花き、水産物
卸売業者	青果物 1 社、水産物 1 社
買受人	141 人
関連事業者	22 社

(平成 29 年 3 月末現在)

